

一斉



全教一斉ひのきしんデー

本年も、管内各地で全教一斉ひのきしんデーが開催され、多くの教友が参加しました。
写真左上：ニューヨーク地区、右上：ハリウッド地区、左下：ガーデナ地区、右下タコマ地区。

天理教アメリカ伝道庁

No.930



TenrikyoAmericaCanada.org

MAY
2025



つらつらせんがく 熟々浅学



— クリティカルシンキング — Critical Thinking

先月は教祖が227回目のお誕生日をお迎えになられました。誠におめでたいことでありました。

今月は、アメリカ婦人会総会が開催されます。一人でも多くの婦人会員が参加して下さることを願っております。そして、婦人会員が一手一つとなって、教祖年祭活動の仕上げの年の会活動に邁進していただきたいと思えます。

また、学生会春季練成会も開催されます。学生たちが集い、互いに刺激し合いながら成人への道を歩んでくれることを期待しています。

更に、来月(6月)には第85回アメリカ修養会の開講が予定されています。多くの志願者を与えられますよう、どうぞ宜しくお願い致します。

さて、「フィルターバブル(Filter Bubbles)」という言葉があります。日本の総務省のWebsite(<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r01/html/nd114210.html>)では次のように定義しています。

アルゴリズムがネット利用者個人の検索履歴やクリック履歴を分析し学習することで、個々のユーザーにとっては望むと望まざるとにかかわらず見たい情報が優先的に表示され、利用者の観点に合わない情報からは隔離され、自身の考え方や価値観の「バブル(泡)」の中に孤立するという情報環境を指す。

そして、次の3つの問題が生じていると書いてあります。

第一に、ひとりずつ孤立するという問題である。例えば、テレビの専門チャンネルでごく狭い分野

を取り扱うものを見る場合でも、自分と同じ価値観や考え方を持つ人が他にも見ているが、インターネットにおけるフィルターバブルの中には自分しかいない。これにより、「情報の共有が体験の共有を生む時代において、フィルターバブルは我々を引き裂く遠心力となる」としている。

第二に、フィルターバブルは目に見えないという問題である。テレビを見る際には自分が何を見るかを選択している限り、なぜその番組が選ばれたのか理解しているが、パーソナライズされた検索エンジンによって表示された結果は、なぜそれが選ばれたのかその根拠が明確に示されることはない。フィルターバブルの内側にいると、表示された情報がどれほど偏向しているのか、または情報が偏向のない客観的・真実であるのかが分からないことになる。

最後に、フィルターバブルの内側にいることをユーザー自身が選んだわけではないという問題である。テレビや新聞、雑誌を視聴する際、どのようなフィルターを通して世界を見るのかをユーザーは自ら能動的に選んでいる。しかしパーソナライズされたフィルターの場合、自ら選択してフィルターを使用しているのではなく、避けようにも避けにくい状態になっていると指摘している。

また、上記と重なる部分がありますが、AI(Artificial Intelligence)によりますます次のような弊害が挙げられています。

- ・考えが偏る可能性がある。
- ・孤立する可能性がある。

- ・異論や別の視点に触れる機会が失われる。
- ・ネットには誤った情報や意図的なウソ、デマも出回りやすい
- ・社会の分断に拍車がかかる可能性がある。

また「エコチェンバー (echo chamber)」という言葉もあります。総務省では次のように定義しています。

ソーシャルメディアを利用する際、自分と似た興味関心をもつユーザーをフォローする結果、意見をSNSで発信すると自分と似た意見が返ってくるという状況を、閉じた小部屋で音が反響する物理現象にたとえたものである。

AIによる概要では、「エコチェンバー」は次のような弊害を引き起こす可能性を指摘しています。

- ・誤った情報やフェイクニュースを信じ込みやすくなる。
- ・異なる意見を受け入れにくくなる。
- ・社会的な分断を引き起こす。
- ・過激な行動を引き起こすリスクがある。

「フィルターバブル」にしても「エコチェンバー」にしても、ネット社会での閉鎖性が原因で、人々の心や考え、思想が影響され、凝り固まってしまう可能性を指摘しています。つまり、現代の文明社会では、さまざまな機器やテクノロジーを活用して生活しているため、これらによって人間がコントロールされる危険性が既に生じており、実際に現実化しているということです。

この「フィルターバブル」や「エコチェンバー」は、主にネットユーザーを対象とした危険性について述べられていますが、テレビ、新聞、雑誌といった所謂「オールドメディア」においても同様の問題が見られます。テレビ会社、新聞社、出版社が意図的に正確な情報を流さず、視聴者や読者をコントロールすることが現実に行われています。場合によっては、それらの企業にとって不都合な情報を流さない、或いは掲載しないことさえ可能です。また、たとえ正確な情報を提供していても、報道に割く時間や機会、紙面の扱いや文字数によって情報の重要度をコントロールすること

ができます。

このような事実を踏まえると、情報社会において私たちがどのように情報を扱うべきかが非常に重要であることに気づかされます。

そこで必要なのが、見聞きする情報が正確かどうかを見極める力です。その思考方法の一つが「クリティカルシンキング」だと思うのです。

「クリティカルシンキング (批判的思考)」とは、日本のリクルート (Recruit) のWebsite で次のように定義されています。

クリティカルシンキングとは、現状の課題・問題が何か、その事象を「批判的」に捉えて、本質的な課題は何か、それに対する仮説・回答は何かということを網羅的に、かつ深く考え抜く思考法のことをいいます。

つまり、「クリティカルシンキング」とは、物事を客観的かつ深く考え、本質を見抜く力を指すと言えるのではないのでしょうか。

私たちの信仰においても、「クリティカルシンキング」は大切であると思います。さまざまな情報を得ても、その本質を見極め、教えに基づいた答えを導き出すことが重要だと思うのです。

つまり、私たちにとって大切なのは、常に「教祖ならどうするだろうか」と問いかけながら、物事の本質を見抜く力を養うことだと思うのです。

現代社会では、世間の風潮に流されやすい場面が多々ありますが、そうした中でも教祖の教えを基準に物事を見つめ、判断する姿勢が大切です。この姿勢こそが、世間の風潮に左右されない自分を育み、延いては陽気ぐらしに向かう正しい道を歩むための土台作りとなるのではないのでしょうか。

深谷 洋

立教188年4月月次祭祭文

これの神床にお鎮まりくださいます親神天理王命の御前に天理教アメリカ伝道庁長に代わり主事田中知義慎んで申し上げます。

親神様には、世界一れつの子供をたすけたいとの深い親心から、教祖をやしろにこの世の表にお現れくだされ、世界たすけの道をお啓きくださいました。教祖五十年の丹精をもってお付けくださいましたひながたを手本に、私共が、陽気ぐらしの成人の道を勇んで歩ませていただいておりますことは、誠に有難く勿体ない限りでございます。その中にもこの月は、寛政十年四月十八日、御存命の教祖がお生まれ遊ばされた芽出度い縁の月に当たりますので、今日の佳き日に、おばの理を頂戴して、只今から、おつとめ奉仕者一同、慶びの心をもって、陽気に座りづとめ、てをどりをつとめて、当伝道庁の四月月次祭を執り行わせていただき、併せて、教祖の二百二十七回目のお誕生日をお祝いさせていただきます。

御前には、今日の日を楽しみによぶごく、信者一同が参集し、日頃賜る御高恩に御礼申し上げ、尚も変わらぬ御守護を頂戴したいと伏し拝む状をも御覧くださいます、親神様にもお勇みくださいますようお願い申し上げます。

今月は、教祖誕生祭参拝に、管内より大勢の教友が帰参しておりますが、それぞれがおばの理を頂戴し、土地所に戻りましてからは、尚も勇み心でたすけの御用をつとめられますようお導きの程をお願い申し上げます。

また、今月から来月にかけて、管内各地でひのきしんデーを開催しますが、にをいがけの一助にもなりますようお願い申し上げます。

私共は、教祖百四十年祭年祭活動仕上げの年の時旬に、世界にお見せくださる戦争や紛争、或いは災害を鑑みて、陽気ぐらし世界実現を急ぎ込まれる親神様の思召を改めて思案し、教祖のひながたを頼りに、たすけ一条の道を邁進致したいと存じます。また、心の成人に励んで年祭活動に取り組み、管内が一手一つとなって、教祖年祭を迎えたいと存じます。何卒、親神様には、私共の真実の心をお受け取りくださいます、世界の人々が互いに手を取り合って暮らせる世の状に、一日でも早く立て替わりますよう御守護の程を、一同と共に慎んでお願い申し上げます。

四月月次祭神殿講話

ロスアンゼルス セントラル教会長
野町 ジョナサン

皆さん、おはようございます！4月の伝道庁月次祭にご参拝、ご出席を賜り、誠にありがとうございました。本日は、田中先生のもと、座りづとめとてをどりを、皆様と共に一手一つに喜び勇んで勤めさせていただきました。

今日、皆さんにお話しする機会を与えてくださった深谷庁長先生に感謝します。お話をいただいた時に瞬時に思ったのは、教祖の誕生月である4月に話すというプレッシャーでした。そのため、あまり積極的にお受けすることができませんでした。このプレッシャーを和らげるために冗談交じりに自分に言い聞かせたのは、庁長先生が私に講話の依頼したのは、庁長先生はじめ主だった方々が皆おぢばに帰られているので、先生方は私が醜態を晒すのを見なくて済むというお考えからだ、とそのような心持ちで過ごしていたのが正直なところです。ですので、私が講話を始める前に皆様どうぞLINE、Instagram、Facebook、TikTok等ご自分のソーシャルメディアのアプリを開いてください。そして、今日私が素晴らしい講話をしたというメッセージを世界中に送ってください。#BestSpeechEverです！それではここから少しの間お付き合い下さい。

教祖140年祭の日が近付いて来ている状況の中、皆様に何をお話ししようか悩みました。私はどちらかというつまらない人間で、皆様にお話しできるような信仰上のすごい話だとか奇跡的な話があるわけではありません。ですが、自分の人生で感謝すべきこと、有難いことがたくさんあることは知っています。論達第四号には、



「教祖年祭への三年千日は、ひながたを目標に教えを実践し、たすけ一条の歩みを活発に推し進めるときである。」とあります。

教祖の教えの一つに、いかなる状況の中でも喜びを見いだし、身の回りのすべてに感謝する、ということがあります。そこで私は、140年祭に向けて自分ができることとして、自分の人生において感謝していることを皆さんにお伝えすることに焦点を当てることにしました。

この度は、私にとっての初めての講話ですので、自己紹介と私が会長を務める教会の紹介から始めようと思います。私の名前は野町ジョナサンで、カリフォルニア州ダウニーにあるロスアンゼルスセントラル教会の3代教会長です。農家の5代目として生まれ、初代の信仰は、顔面神経痛という病気がきっかけで始まりました。私の両親は野町裕、照代前会長夫妻で、50年以上ロスアンゼルスセントラル教会の中心となり、現在も我々を導いてくれている、お道の上でのリーダーです。

COVID-19の制限期間中に私が会長となったため、両親はおそらく、教友の方々から労いの言葉をかけられたりする機会が限られていたのではないかと思います。ですので、この場をお借りして、長年にわたって教会を導いてくれた父と母の努力と献身に感謝の意を表したいと思います。私は会長として学ぶべきことがまだまだたくさんあり、両親に教わったことすべてに同意できるわけでもないのですが、今でも二人を頼りにできることにとても感謝しています。

両親が積み重ねてきた信仰のおかげで、私たちの教会は現在、渡辺家、ターナー家、ウィルソン家、私の姉妹たち、そして私の素晴らしい妻と3人の子供たちを中心とする家族や個人で成り立っています。教会で育った私は、毎日受ける限りないご守護を当たり前のことだと思い、教会での日常生活の一部として捉えていました。しかし、年を重ね、今では会長となり、皆の信仰心と教会へ尽くす心がよりはっきりとわかるようになり、感謝の心が深まってきています。おさしづには、

国々名称の理を下ろしてある。教会々々、一名称々々々、芯という者ある。



祭典後、参拝者全員で教祖のお誕生日をお祝いしました。

よう聞き分け。その者から心分かりてくれ。
明治三十三年十月三十一日
とあります。

自分が育てた野菜や果物をお供えとして持ってきて下さる方、直会の準備をして下さる方、上段の準備や掃除をして下さる方、直会の後に子どもたちをゴミ拾いに連れて行って下さったり一緒に仕事をして下さる方、多忙なスケジュールにもかかわらず、ほぼ毎月欠かさず参拝して下さる方等、教会がうまくいくために欠かせない存在として一人一人が関わってくれていることに、ただただ感謝の思いしかありません。神様の思いを本当の意味で理解するには、まだまだ学ぶべきことがたくさんあると思うのですが、私たちの教会の一番の強みが、誰か一人ではなく、全員の力が集まって形作られていることにとても感謝しています。

神様の親心をよりよくわかるための心がけとして、140年祭に向かう最後の年である今年の1月1日より、日々感謝できることや日頃賜るご守護の数々を数えることにしました。日々神様から賜る、素晴らしいご守護の数々に気付くことなく、何事においても速いペースで動いていたことで、こうした、時には瞬きのように一瞬で過ぎ去ってしまう喜びの瞬間を、見逃しやすくなっていたように思います。

敢えて自分を見つめ直すことにしたのは、論達第四号の、さらには、「人救けたら我が身救かる」と、ひたすらたすけ一条に歩む中に、いつしか心は澄み、明るく陽気に救われていくとお教え下された。というお言葉からです。

なんて素晴らしいお言葉でしょうか！人を助けることに集中するあまり、自然と心がきれいになり、明るく陽気な心になれる。私はこ

れまでずっと、自分が救われているんだと気付くのは、人を助けるという行為を続けた結果起こってくることであって、どこかの時点でそういった大きな転機があるのだと思っていました。そのせいで、人を何か劇的なそして奇跡的な方法で助けなければならないものだと悩んでいました。しかし、このお言葉のおかげで、心が澄み、明るく陽気に救われていく経験が、自分にもできるんだ、と非常に強く希望を持てるようになりました。そして実際、私はすでにそのような瞬間を経験していたにも関わらず、十分な注意を払っていなかったために、気付いてなかった可能性もあります。だから私は、140年祭に向けた三年千日のこの最後の年に、人助けを続けるのはもちろんのこと、神様から受けるご守護への感謝や喜びの瞬間をできるだけ多く数えようと決めたのです。人生における一瞬一瞬の喜びの瞬間を逃さないようにするためには、暮らしの中で感謝の気持ちを意図的に数えて、心の筋肉を鍛える必要があると思ったからです。

4月19日現在、感謝の瞬間を数え始めてからの累計は、4,745回となっています（1日平均44回の計算になります）。これは神様が毎日私に与えてくださる1日/86,400秒からすると、かなり少ないのではないだろうか。これはそれをかなり下回る数字だと思いますが、私にとって数えることの効果は、そこそこで少し立ち止まって、与えられるご守護を味わえるようになったことです。数えてみての簡単な感想としましては、

1) 感謝の数として数えられることが多かった項目は、おつとめでした。アメリカ伝道庁や自教会の元旦祭、自教会の月次祭等、陽気づとめ、そして直会を一緒にするにあたり、皆がやさしい心で動いている姿を見ると強い感謝の念を感じます。

2) 感謝の数が最も多かった日は、三男の野町オーレンユウシンが生まれた時でした。おそらくその日の私はほぼほぼ何の役割も果た

せていなかったと思うのですが、パートナーのカオリがここまで一緒に歩む覚悟をしてくれたこと、そのためにしてくれた様々なことへの感謝と愛を強く実感した日でした。私は、我ながらかなりラッキーな男だと思います！

3) 感謝の数が低い日は、数えることが目的になっていたり、動くペースが速すぎたり、心が埃だらけなあまり調子の良くない日だったりする傾向があります。しかしながら、そうした時でも思いがけない喜びの瞬間に気付いたりします。太陽が少し明るく光っているように見えたり、長女のマグノリアが次男のリンデンに思いがけない優しいことをしたりした時などがその例です。

今日の話締めくくるにあたりまして、皆さんにささやかな挑戦を提示させて下さい。教祖140周年に向けた最後の年に、まだ何かしようとお考えでしたら、1日で良いので感謝できることの数や喜びを感じた瞬間を数えてみてはいかがでしょうか。皆様きっと私よりも上手に何か見つけられると思いますが、ほんのわずかな時間でも、日々受けるご守護への喜びを感じ、人の役に立ち続けたいという思いが湧き上がってくる楽しみを味わえると思います。この後、子どもたちが教祖御誕生讃歌を歌ってくれることを楽しみにしていますし、昼食のホットドッグを食べて、皆でホットドッグを食べるとホットドッグの味がすることに感謝しながら、おいしい食事を楽しめることを心待ちにしています！

ご清聴ありがとうございました。来年、おちばで皆様とお会いし、共に年祭に参拝させていただけることを楽しみにしております！



成人の節目、教祖140年祭に向けて

シカゴ・スウェーデンボルグ図書館にて天理教紹介講座

去る4月17日、ミッドウエスト教会、文岡邦人会長がシカゴ・ダウンタウンにある図書館で天理教紹介講座をつとめられました。以下はご本人からのレポートです。



会場は「スウェーデンボルグ図書館」というところで、この図書館はシカゴに1877年に設立された歴史ある図書館です。ちなみにこの建物の真南のブロックには1933年に二代真柱様が世界宗教大会にて英語で天理教のスピーチをなされたビル跡地があり、二代真柱様にゆかりのある場所の目と鼻の先でこの度お話をさせていただく運びとなりました。

今回そのスウェーデンボルグ図書館事務局が主催している宗教文化講座に招待され、天理教の紹介講座をさせていただきました。この文化講座は宗教や教派を超えて、様々な教えを学び、互いに交流を深めることを目的としている勉強会のようなもので、一般にも公開されている講座です。

当日、対面式で参加されたのは8名でしたが、講座はZoomでライブ配信され、9名の参加者がありました。オンライン参加者の中にはオーストラリアからも3名の参加者がありました。

講座は約50分、天理教の概要・簡単な教史説明に始まり、教理説明はかしまの・かりもの、八つのほこりを中心にお話をさせていただきました。その後、質疑応答を含めたディスカッションが約30分ほど持たれました。

みなさん真剣に話を聞いてくださり、講座後のディスカッションでは、「私の信仰する教えと共通する点がたくさんあったが、神が親である、という概念はとても興味深いと思った」「陽気ぐらしと相反する心遣いをほこりに例え、ほこりは積もってしまうものなので払い続けることが大事、という教えはとても素晴らしいと思った」などの感想を聞かせてもらいました。

自分自身の感想としては、年祭活動3年目に二代真柱様にゆかりのある場所で、教祖の教えを世界へ向けて発信できたことはとても嬉しく思います。二代真柱様がスピーチをされたのが92年前。92は「クニ」とも読み、真柱様の霊様に護られているような気分でした。また、さらにお話をさせてもらった同時刻はおぢばで教祖御誕生祭が始まる直前で、私なりに教祖のお誕生日のお祝いをさせていただいたような気がします。





伝道庁連絡



4 月次祭

祭主 田中知義
 扈者 中富淳次郎 林孝彦
 賛者 岩橋元博 田所レイ
 指図方 大西 知
 神殿講話 野町ジョナサン (英)

教会事情

タミナル教会

神殿屋根葺替願、遷座祭日願、臨時祭典願

おはこび：2025 年 3 月 26 日

鎮座祭：2025 年 5 月 30 日

奉告祭：2025 年 5 月 31 日

カリフォルニア教会

任命願、臨時祭典願

おはこび予定：2025 年 7 月 26 日

後任者：大西太一トニー

奉告祭：2025 年 8 月 31 日

イリノイ教会

任命願、臨時祭典願

おはこび予定：2025 年 7 月 26 日

後任者：高垣弘明

奉告祭：2025 年 10 月 4 日

お出直し

中土幸子セントラルコースト教会長が4月26日午前1時に直されました。享年97歳。みたまうつしは4月28日午後4時に執り行われました。告別式は6月22日午後1時よりノウスアメリカ教会にて執り行われます。ご生前のご功績に厚く御礼申し上げます。

全教一斉ひのきしんデー

ひのきしんデーを実施された地区の担当者は、実施報告書を伝道庁（担当：増野）までご提出下さい。

第 85 回アメリカ修養会

第 85 回アメリカ修養会が、6 月 15 日（日）から 7 月 12 日（土）まで開講予定です。

開講約1ヶ月前（5月18日）までに、英語・日本語クラスは2名以上、スペイン語クラスは5名以上の申し込みがある場合に限り開講予定です。

TSA 春季練成会

TSA 春季練成会が5月24～26日の日程でアメリカ伝道庁にて開催されます。HARP アクティビティや講義、ひのきしんを計画しており、お楽しみ行事ではサンタモニカ・ピアに行きます。

天理教語学院 (TLI) 日本語科出願

来年度 (2026 年度) の出願に関して大幅な変更がありますので、お知らせ致します。

出願資格

1. 本国で正規の課程による 12 年以上の学校教育、またはそれに準ずる課程を修了した者。

2. 出願時に「日本語能力試験 N5」または「N5 相当」の日本語能力を有する者。

・ 出願に必要な書類として願書と共に日本語能力試験 N5、または N5 相当の日本語能力が必要となります。

・ TLI では、日本語能力 N5 以上を有しない出願予定者に対し、出願前の 5 月から日本語科が提案する教材を用いた自習機会を設け、8 月末までに実力認定試験を受験してもらい、その結果、TLI が N5 相当の日本語能力があると認定した場合に出願を受理する形とし、出願自体を妨げないように便宜を図っています。

・ 願書の配布について：

・ 願書は 4 月 25 日よりダウンロード配布を開始していますので、天理教語学院の Website をご確認ください。

https://kaigai.tenrikyo.or.jp/tli/top/?page_id=1021

・ 同時に、事前学習及び実力認定試験に関する案内も行っていきますので、Website をご確認ください。

https://kaigai.tenrikyo.or.jp/tli/top/?page_id=1079

メモリアルデー墓参

伝道庁では、5月26日（月）午後12時30分より参拝後、エバグリーン墓地へ墓参を致します。

アメリカれつ会新規扶育生募集

2025 年のアメリカれつ会新規扶育生の募集を開始します。対象は、管内教会長、布教所長、出張所長の子孫子女で、大学入学が決まっている方です。扶育を希望される方は、伝道庁に願書を用意しておりますので、ご連絡下さい。願書締切は、6 月 30 日（月）です。新規扶育生は 8 月伝道庁月次祭時に発表致します。尚、2、3、4 年目の扶育生は、願書の提出はありませんが、休学、転校等があった場合、8 月 31 日までに必ず伝道庁までお知らせ下さい。

立教 189 年 1 月と 4 月の別席に関して

教祖 140 年祭前後の 1 月や御誕生祭前後の 4 月は、別席者の増加が予想されることから、事前ライブの日時を決めています。天理教ホームページの「別席外国語スケジュール」、または海外部のホームページの「別席外国語スケジュール」から、予定をご確認ください。

南カリフォルニア山火事募金・ひのきしん活動

南カリフォルニアでの山火事災害への募金として、4 月 25 日ハワイ伝道庁より \$5,750、またハワイ青年会より \$1,000 の義捐金を預かりました。これらを、管内から集まった \$17,042、天理教国際たすけあいネットより預かった \$15,000

に含め、合計 \$38,792 を「南カリフォルニアでの山火事」の災害救援活動に役立ててもらえるよう「Emergency Network Los Angeles (ENLA)」に寄付しました。



美馬孝俊ハワイ伝道庁主事より、ハワイ伝道庁とハワイ青年会からの義捐金を預かる (4/25/2025)。

伝道庁人事

2023年8月17日より青年として勤めている田中真男氏(此花・湯浅)は、2025年5月21日に勤務を終えて帰国します。

各会連絡

ふしん委員会

- ・MP裏のゲートの柵が破損しており、武本エディー会長が修繕して下さいます。
- ・山崎ブライアンさん(ハリウッド教会)や伝道庁スタッフが駐車場、パイオトップガーデンの除草ひのきしんをして下さっています。

布教委員会

- ・教会長・布教所長・出張所長の伝道庁月次祭当番を、7月から再開させて頂く予定です。当番表作成のため、希望月調査のメールを送信しております。以下のリンクから、5月末までに希望月(第1~第3希望月)をお知らせ下さい。
<https://forms.gle/6c2ezkKVtNgbZD9N8>

教化育成委員会

- ・森下エイミーさんと、カウンセラーのレイチェル・パーカーさんが、名東詰所で事前に宿泊している期間、学生の世話取りをして下さいます。
- ・5月18日午後4時(太平洋時間)より、おやさと練成会に参加する学生・保護者・スタッフを対象に、Zoomで合同オリエンテーションを行います。

広報委員会

- ・教祖140年祭に向けて活動している方々の情報を「一れつ・ニューズレター」に連載しています。つ

きましては、各教会・布教所・地区、また身の周りの方々の活動情報・写真等の提供をお願い致します。
・伝道庁ホームページにて、「祭典講話」、「SoulFire」の記録ビデオ、「Stories inspired by Oyasama」等のアップデートがされています。是非、伝道庁ホームページをご覧ください、また周りの方々に紹介いただきますようお願い致します。また、domain nameも Tenrikyo.com から TenrikyoAmericaCanada.org に変更されています。

Future Path 委員会

- ・2025年8月30、31日に天理教アメリカ伝道庁にて、天理教原典勉強会(おふでさき、みかぐらうた、おさしづ)を開催します。詳細は、アメリカ伝道庁ウェブサイト(QRコード)をご覧ください。申込みの締め切りは7月1日。
- ・ご質問は、tenrikyoprograms@gmail.com、(323) 261-3379 までお問い合わせ下さい。

婦人会

- ・地区総会
ニューヨーク地区 6月22日(日)午後1時
於: ニューヨークセンター

少年会

- ・少年会キャンプ 6月20日(金)~22日(日)
- ・アメリカ団のこどもおぢばがえりは7月24~30日までの期間で開催する予定です。また、海外少年ひのきしん隊は7月25~30日の期間で開催されます。申込書を5月31日までにご提出下さい。
- ・少年会総会は8月16日(土)に開催します。申し込みがまだの方はお早めにお申し込み下さい。尚、伝道庁月次祭後、1時より神殿、または少年会ルームにておつとめ練習を行いますので、ご参加下さい。
- ・新生児や転入された少年会員がおられましたら、上記メールアドレスまでお知らせ下さい。
- ・少年会員に教祖のお話をしましょう。親子ぐるみで教会に参拝し、ひのきしんをさせていただきます。

青年会

- ・アメリカ青年会総会を、6月14日(土)午前10時30分に開催します。総会後は、ひのきしんを行いますので、ひのきしん用の服をご持参ください。夜はドジャースの試合観戦に行きます。アメリカ青年会員へ割引チケットを準備していますので、チケットを購入したい会員は委員長(ウオング遼: wongryo@gmail.com)までお問い合わせください。
- ・第99回天理教青年会総会は、10月25日(土)午後1時より本部中庭で開催予定です。

NYセンター

- ・5/25 青年会主催ファミリー BBQ

Study Seminar Tenrikyo Sacred Scriptures



天理教原典勉強会のご案内

天理教原典勉強会を8月30日及び31日（レイバー・デーの週末）の両日に、アメリカ伝道庁にて開催させていただきます。おふでさき、みかぐらうた、おさしづの三原典を勉強させて頂き、心の成人をさせて頂くまたとない機会です。

この勉強会では、東馬場郁生教授、林孝彦先生が講師をつとめられます。この勉強会に関する詳細及び申し込み書については、以下のリンクにあるアメリカ伝道庁ウェブサイトをご覧ください。なお、申し込み締め切りは7月1日です。

https://tenrikyoamericacanada.org/scripture_study_seminar_2025

勉強会是对面式で、英語で行われます。参加費は無料です。交通費に関しても一部援助があります。参加人数に限りがありますので、早急に申し込み書をご提出下さい。また、家族、友人の方々にも、この勉強会をご案内下さい。ご不明な点は、電話かメールにて伝道庁へお問い合わせ下さい。

メール：Tenrikyoprograms@gmail.com 電話：(323) 261-3379

TENRIKYO MISSION HEADQUARTERS IN AMERICA
2727 EAST FIRST STREET
LOS ANGELES, CA 90033

NON-PROFIT ORG.

U.S.POSTAGE
PAID

LOS ANGELES, CA
PERMIT NO.30002

CHANGE SERVICE REQUESTED

THE JOYOUS LIFE



TENRIKYO came into existence on October 26, 1838, when God the Parent, Tenri-O-no-Mikoto, became revealed through Oyasama, Miki Nakayama, to save all humankind. God the Parent is the original and true Parent who not only created humankind but has nurtured and protected human beings ever since.

God the Parent created humankind so that by seeing us live the Joyous Life, God could share in our joy. The living of the Joyous Life is, therefore, the purpose of our existence. Since God the Parent is our Parent, we are all God's children, and thus we could realize that we are all brothers and sisters.

“With human beings:the body is a thing lent by God, a thing borrowed.
The mind alone is yours.”
Osashizu:June 1, 1889

We are taught that our bodies are borrowed from God the Parent and only our minds belong to us and, by the proper use of our minds, we will be able to live the Joyous Life.